

セライナ市学生等使節団が来日

市とアメリカ合衆国オハイオ州のセライナ市では相互に学生を派遣・受入れする交流事業を隔年で実施しています。今年セライナ市からの学生を受入れる年。8月2日、8日までの1週間の日程でセライナ市から学生ら10人が市内を訪れました。

最終日に学生たちから回収した今回の訪問についてのアンケートにはホストファミリーをはじめ、みんなが親切にしてくれた。食べ物も美味しかった。今回の交流事業に参加してよかった。またみんなに会いに戻ってきたいなどの感想が書かれていました。



①歓迎セレモニー ハッピーがプレゼントされました②みんなでデコ巻き寿司やカップ寿司を作りました③淡路島まつりで阿波踊りに挑戦④気持ちを込めて書道体験⑤お別れセレモニー また会うことを約束しました

吉備国際大学からのお知らせ

ランチ・タイム講座

8月の広報に掲載しました吉備国際大学地域創成農学部各教員による「ランチ・タイム講座（下記の表の日時、内容とおりに）」につきまして、申込書を志知キャンパス事務室で用意しています。

直接事務室窓口までお越しいただくか、FAXでの受け付けもおこないますので事務室までお電話ください。申込書を送信します。受講料は無料ですが、昼食代として開講日当日に400円いただきます。各回ともに、午前のみ、午後のみは受付はしておりません。なお、申込締切は各開講日の1週間前までとしています。定員（各開講日30人）となり次第締切とさせていただきます。ご了承ください。

下宿受け入れ

自宅で学生が下宿可能な人がいましたら、キャンパス事務室までご連絡いただけませんか？よろしくお願ひします。



日程	11時～12時	13時～14時
第1回	9月25日 内藤正明「人類はどこまで持続が可能か」	橋本久美子「太陽から吹く風のおはなし」
第2回	10月23日 眞山滋志「人は植物を育て守る使命をもつ」	加古敏之「TPPと日本農業」
第3回	11月20日 森野真理「獣害とむきあう：獣害管理から資源管理システムへの試案」	吉川貴徳「植物の「形」の不思議」
第4回	12月18日 金沢和樹「元気で長生きできる食生活」	谷坂隆俊「日本は立ち直れるか？ - 科学者の立場から -」
第5回	1月22日 末吉秀二「人口減少社会は何を私たちにもたらすか」	生駒正文「なるほど なつとく」相続入門講座」
第6回	2月19日 村上二郎「カビも毒を作るんですーカビ毒汚染の危険性ー」	平井順「社会学に関するお話」

☎キャンパス事務室
42・4700
42・4701
〒760-0001



コアラ記念切手発売、11月5日まで



▲伊藤さんから記念切手を受け取る川野副市長

淡路ファームパーククインランドの丘で10年ぶりに生まれたコアラの赤ちゃん「そら」が8月6日に1歳を迎えました。日本郵便近畿支社はこれを記念したオリジナルフレーム切手を制作。誕生日にあわせた発売日には、関係者らが参加して同施設で切手の贈呈式が行われました。

「コアラの飼育担当職員がアイデアを出した切手のイラストは、母親コアラの「ゆめ」と「そら」の親子が火花を見ているもの、クリスマスの帽子をかぶっているものなど四季を感じる10種類の図柄となっています。」

日本郵便近畿支社の伊藤孝さんは「フレーム切手が観光振興の一助になればうれしい」と話し、川野副市長は「日本郵便株式会社との地域活性化への取り組みに感謝します」と話しました。

記念切手は島内49局の郵便局とクインランドの丘で販売されています。

良太郎西瓜に初めて認定されました

アジア国際子ども映画祭を提唱する俳優で歌手の杉良太郎さんの呼び掛けで、皮が薄くて舌触りの良い昔ながらのスイカの再現に向け、昨年度から行われている「南あわじ良太郎西瓜」の栽培。

今年も大きく育ったスイカの品評会が、淡路ファームパーククインランドの丘で7月27日、杉さんや中田市長のほか、栽培した農家の人たちが出席して行われました。

今年も大きく育ったスイカの品評会が、淡路ファームパーククインランドの丘で7月27日、杉さんや中田市長のほか、栽培した農家の人たちが出席して行われました。



▲杉さんから認定書が手渡されました

品評会終了後には、栽培されたスイカがクインランドの丘の来園者にふるまわれ、夏の味覚に舌鼓を打ちました。

ふれあい市長室

南あわじ市の良さを再確認

南あわじ市長 中田勝久

今夏も淡路島そうめん祭り、ぬしまフェア、丸山港とれたて日曜朝市、慶野松原花火大会、福良湾海上花火大会など南あわじ市の良さを自慢できるイベントが、多数行われました。南あわじ市には、淡路島たまねぎ、レタス、鱧や鯛などの農水産物で全国的に有名となったものは沢山あります。まだまだ外部に向けて十分に発信されていないものも

あります。今後も市民の皆さんとともに南あわじ市の魅力を発掘、発信していきたいと思っています。

さて、俳優で歌手の杉良太郎さんが提唱する昔ながらの西瓜を南あわじ市で復活させようという取組も2年目になりました。今年の「南あわじ良太郎西瓜収穫祭」では70戸の栽培者より厳選された26個の中から1点が「食感がなめらかで甘みが濃い」と念願であった良太郎西瓜に認定されました。こういった活動の継続がブランド化に繋がり、やがて南あ

わじ市の魅力の一つに育っていくと思っています。

次に日本の魅力でもありません。「鳴門の渦潮」については4月から市役所に専門部署である「鳴門の渦潮世界遺産登録推進室」を設置し、島内3市や観光協会で作る「鳴門のうず潮世界遺産登録推進協議会」を支援、PR活動に取り組んでおります。世界遺産登録は富士山の例でもわかるように、一朝一夕ではなし得ません。こつこつと地道な活動を積み上げていく必要があります。渦潮の価値を科学的にどう証明するか、登録に向けた機運を南あわじ市は勿論、淡路島民、徳島県や関係自治体

がどう共有していくか、PR運動などには課題も多くありますが、鳴門の渦潮の世界遺産登録を目指してまいります。

また、8月には、国際姉妹都市である米国オハイオ州セライナ市の学生等からなる使節団10名が南あわじ市を訪れました。7日間という短い期間で

市民の皆さんにおかれましては、鳴門の渦潮世界遺産登録を目指しての運動を共に盛り上げていただきますようお願いいたします。また、自分たちが暮らしている、南あわじ市の良さを再確認していただき、機会を捉え島外の方々にもPRいただければ幸いです。